

学校法人岩崎学園 横浜リハビリテーション専門学校 令和4年度自己評価表

評価基準
4;適切 3;ほぼ適切 2;やや不適切 1;不適切

1. 教育理念・目標

担当	評価項目	令和4年 後期評価	2022(令和4年)年度後期達成状況	2023(令和5年)年度前期に取り組むべき課題等
瀬古	・教育理念等を明文化しているか。 ・教育理念等を教職員に対して周知徹底を図っているか。 ・教育理念等を公表しているか。	4	・本校パンフレットにて周知した。 ・Webサイトにて公表。入学者には入学ガイダンスで、保護者には学生を通して周知した。 ・学生の手引きを在校生には岩崎学園ポータルサイト(iポータル)から、教職員にはPDFで配布した。 ・旧指定規則(現4年生)と新指定規則(現1~3年生)の学年が混在しているため、取り扱いに注意した。	・継続 ・今年度よりすべての学年が新指定規則となっている。
	・教育目的・目標、教育計画が文書化され、提示されているか。	4	・2020年度の新入生より、新指定規則である。 ・カリキュラム、シラバスを作成し、よりわかりやすい形で学生に提示した。 ・カリキュラムは臨床実習施設にも配布した。 ・シラバスは岩崎学園のLearning Management System(学習支援システム;以下、スタログ(LMS))で時間割と共に配信し、閲覧が可能である。 ・教育目的・目標ならびにアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーについて、HP上で公開している。	・新指定規則該当学年は1~4年生のすべての学年である。 ・アセスメント・ポリシー(学習成果の評価方針)は策定途中であるが、運用できるものから実施し、修正を行っている。

2. 学校運営

担当	評価項目	令和4年 後期評価	2022(令和4年)年度後期達成状況	2023(令和5年)年度前期に取り組むべき課題等
瀬古	・理事会、運営会議(教職員会議・教員会議等)が定期的開催されているか。	4	・理事会、経営管理委員会は適宜実施されている。 ・本校では教務部会議・教務部運営会議・各学科会議・グループリーダー会議・各業務会議・広報学生課会議、朝礼を開催している。 ・グループリーダー会議は1・2年、3・4年担任に分け、それぞれの課題について話し合いを設けた。	・グループリーダー会議は各学年ごとに課題を抽出し、1回/3月の頻度で教務部運営会議に挙げ、教務部運営会議からフィードバックする方法に変更する。
	・事業計画が定められているか。	4	・業務毎に1年間の業務計画を定め、実行した。	・COVID-19による影響を鑑みながら、計画や目標に沿い、学校運営を行う。
	・予算・収支計画は有効かつ妥当であるか。	4	・予算の範囲内で運営している。	・経年劣化に伴う機器の更新が多くなっている。引き続き、予算の範囲内で更新をかけていく。
	・就業規則等は定められているか。	4	・定められている。	・継続
	・教職員一覧表(採用年、資格、年齢、学歴等記載)はあるか。	4	・学校基本調査に合わせ年に1回更新した。	・継続
	・業務分掌は適切か。	3	・年度ごとに各業務担当(図書・備品、国家試験対策、学校行事、臨床実習、FD)を決定し、遂行した。 ・COVID-19感染症対応に伴い学生対応業務が増えた。 ・臨床実習の実習施設の確保や変更が相次ぎ、教職員の業務負担が増えた。 ・岩崎学園横断プロジェクトがあり、教職員の業務量が増えている。 ・学生対応に関する担任業務が増加している。	・業務の簡略化ができる部分を探索し、業務負担を軽減していく。 ・COVID-19感染症対応については2類から5類への移行に伴い、学校対応を見直していく。
	・人事考課は制度化されているか。	4	・冬賞与時・年度末に実施した。	・2023年度より岩崎学園の新たな人事評価制度が展開されることになり、それに合わせた人事考課を行っていく。 ・夏賞与時に実施予定。
	・出退勤が適切に管理されているか。	4	・ 勤怠管理システム「KING OF TIME」または出勤簿、勤怠届を月次管理した。	・今年度から非常勤講師も勤怠管理システム「KING OF TIME」での管理となる。滞りがないよう非常勤講師に使用方法を周知していく。
	・公印が管理されているか。	4	・「公印簿」に記載し、管理した。	・継続
	・教職員の健康診断を実施しているか。	4	・健康診断は2022年4月1日に実施した。 ・ストレステストは12月に各自webで実施した。	・健康診断は2023年4月3日に実施した。
・情報システム化等により業務の効率化が図られているか。	4	・資料の配信・ミニテストなどを岩崎学園共通LMS(スタログ)で学生に展開している。 ・スタログで教員・学生共に出席管理を実施、また、試験結果の入力や帳票の作成、会議資料の作成もスタログでの運用を開始した。 ・GoogleworkSpaceや岩崎学園独自のiポータルを利用し、学校からのお知らせなどを配信している。 ・学生が学校のGmailアカウントを持っているため、教職員・学生間での連絡が容易である。 ・岩崎学園でGaroonを利用し、全教職員のスケジュールを把握している。また、4年生の就職活動状況の確認もGaroon上で行えるようになった。 ・岩崎学園で勤怠管理システム「KING OF TIME」が導入され、運用している。 ・ 全館Wi-Fiが完備され、どこでもWi-Fiが利用できるようになっている。 ・DX推進委員が岩崎学園内に設置され、DX化を提案してくれている。	・スタログ(LMS)の課題整理と利便性の向上を図る。実技関連授業の動画を学生が繰り返し視聴することは効果的であるため、動画の撮影方法をプロジェクトチームで模索していく。 ・デジタル化のメリット・デメリットを見極めながら、紙面による書類等の扱いや情報収集などについて検討する。 ・岩崎学園DX推進委員の協力のもと、業務の効率化を進めていく。 ・種々オンライン化に伴い、ネットワークの保守が重要であり、岩崎学園の情報システム担当者等と連携を図っていく。	

3. 教育活動

担当	評価項目	令和4年 後期評価	2022(令和4年)年度後期達成状況	2023(令和5年)年度前期に取り組むべき課題等
水島	・シラバスのとりまとめと学生への周知はできたか。 ・シラバスの活用方法について情報を収集し、検討したか。	4	・岩崎学園共通LMS(スタログ)にて、シラバスを配信している。また、GoogleworkSpaceを活用し、ホームルーム情報や総合演習のフィードバック、学内実習などを行っている。オンライン・対面授業・実技とハイブリットな方法で実施している。 ・配信時に、各科目担当教員や担任より学生への周知・活用を依頼した。 ・シラバスは奨学金新制度に適應するよう変更し、また岩崎学園共通LMS(スタログ)での配信に合わせ、一部改良したものを導入した。	・岩崎学園共通LMS(スタログ)として、スタログ上でのシラバス公開を継続する。
	・育成人材像に向けた修業年限分のカリキュラムが文書化されているか。	4	・総単位PT137・OT135単位(指定規則101単位)。教育課程および授業時限数、学則は所管の神奈川県厚生労働局に提出済である。 ・2020年度新入生から、新指定規則に対応するカリキュラムを実施している。本年度、両学科でカリキュラム時間の変更、OT学科で科目名の変更など部分改定の届け出を提出した。OT学科では、コロナ禍での臨床実習登録が遅延したため登録申請を行った。	・新カリキュラム4年目で、各学年のカリキュラム時間数や科目名の調整を行い、学生募集に向けた効果を確認する。
	・カリキュラムは事前に学生に周知しているか。	4	・入学生には、入学時オリエンテーションにて、感染対策を実施しながら対面で説明を行った。 ・在校生には岩崎学園共通LMS(スタログ)で周知した。	・特になし
	・カリキュラム作成に高校生の現状を反映させているか。	4	・学生募集イベント「体験入学」で実施している模擬授業等から高校生の現状を把握している。 ・入学試験時の個別面接において、生活習慣、学習習慣、社会適応力などについて聴取し、必要なカリキュラム改定を実施している。 ・教職員2名が県立高校2校(横浜南陵・瀬谷高等学校)にて評議委員を務め実情を確認した。 ・令和5年度入学予定者に入学前教育プログラムを実施し、受講状況と課題提出状況を把握した。	・R5年度はCOVID-19の5類への移行が見込まれるため、対面及びオンラインなど柔軟に検討し、これまでと同様に高校生の現状を把握する。
	・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか。	4	・「学校関係者評価委員会」および「教育課程編成委員会」にて、情報を収集した。 ・関連分野の非常勤講師と意見交換を実施した。 ・臨床実習施設と連絡を取る際に、卒業生の状況、学校への評価などについて随時聞き取り調査を実施している。	・今年度も同様に連携していく。 ・今後Webアンケートなどを行い、結果について分析する。
	・社会のニーズや学生の質に合わせたカリキュラムの見直しはできたか。	4	・5年ごとに実施される指定規則改定に向け、新カリキュラムにて運営している学年(2020年度1年生)から情報収集を行っている。	・指定規則改定を鑑みながら、引き続き社会のニーズや学生の質にあわせた新しいカリキュラムの内容について検討する。
・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。	4	・シラバスに記載・学生へ周知している。	・特になし	

学校法人岩崎学園 横浜リハビリテーション専門学校 令和4年度自己評価表

田中	教育力向上	・教員の採用について、専門性確保の観点から基準が設けられているか。	4	・学歴、業務経験等、担当科目により基準を設けて取り組めた。	・引き続き同様の方針で実施する。
		・授業スキルの向上のため、校内職員研修会を充実させ、組織として「確かな学力」、「考える力」を育成するための授業づくりを推進し、学生への指導スキルの向上を目指したか。 ・学生による授業評価(授業アンケート)の結果において、授業に対する積極性の向上は見られたか。 ・授業アンケート結果を受け授業の見直しを行ったか。 ・授業アンケートの活用方法について情報収集を行ったか。	4	・学園で展開されている「授業力診断フォローアップセミナー」に参加した入職1~2年目の教員に対し、学園での振り返り懇談会があり、新入職教員と先輩教員が参加し、意見交換を行った。 ・ 後期授業アンケートはスタログ(LMS)を使用し、中間を2022年11月14日~11月25日、終了後を2023年2月6日~2月17日に実施した。回収率は中間89.5%、終了後95.3%であった。 前期は終了後の回収率が71.2%と低かったため、向上が課題であった。後期は担当や担任からのアナウンスをより徹底し、回答率が向上した。集計結果は、教員がすべての教科を確認できるシステムに変更されており、全体の傾向を確認することができる。そのうえで、中間結果を踏まえて、非常勤講師を含め、担当教員から学生へフィードバックが行われた。	・2023年度も「授業力診断フォローアップセミナー」に 新入職員2名が参加する。 ・授業アンケートは、前期に2回実施予定であり、非常勤講師を含め、担当教員が自身で結果を確認し、学生へのフィードバックを行う。終了後のアンケート回答率を上げるため、担任からの促しを増やす。
		・教員の指導力向上のための研修会の開催や外部機関での研修参加を促進することができたか。	4	・後期の研修会として、進研アド担当者による「基礎カリサーチ2回目の報告会」を12月9日に開催した。これまでは、学期の後半に開催していたものを、学期途中に開催することで要注意学生の確認と指導に活かした。 ・外部講習会については、Web開催を中心に参加を促した。	・ 基礎カリサーチ1回目報告会については、結果が出た時点でできるだけ早期の開催を予定し、結果を学生指導に生かす。 ・研修会・学会については、引き続き、参加や発表を促す。
		・非常勤講師との定期的な情報の共有を図っているか。	4	・クラス担任は、非常勤講師と学生に関する情報交換を行った。 ・一部非常勤講師のオンライン授業について、教職員がサポートし、情報共有を行った。 ・COVID-19に対する学校対応に変更があった場合、文書にて周知した。	・クラス担任(特に1年生)は、非常勤講師と学生に関する情報交換を行う。 ・一部非常勤講師のオンライン授業について、教職員がサポートする。 ・政策として変化するCOVID-19の対応については、岩崎学園の対応に準じながらも、実習を行う専門職養成校としての立場から検討する。検討して変更した点については順次周知していく。
		・新入教職員教育を含め、スムーズな世代交代を促す教育体制を構築しているか。	4	・新入教員は学年のサポート業務を担いながら、メンター教員から指導を受けた。 ・岩崎学園の「授業力診断フォローアップセミナー」の振り返りを行った。	・ 1年の流れを通して全体業務と担任業務を把握できるよう、引き続き学年のサポート業務を担い、メンター教員からの指導を継続する。
瀬戸山	臨床実習	・実習依頼がスムーズに行えたか。 ・必要な実習施設の確保ができたか。 ・回答結果、承諾書の集計と管理ができたか。 ・実習施設からの申請書、契約書の管理ができたか。 ・回答結果に対する公文書の送付がスムーズに行えたか。	4	・2023年度実習受け入れについては、google formでの回答を依頼した。また承諾書等の書類提出は、既存施設はgoogle formでの修正・追加、新規施設は、紙面での返送とした。承諾書等は今後すべてをデジタル化し、SSDで管理する予定である。 ・回収率は紙面のみでの回答に比べ良好であるが、一部施設においてはgoogleへのアクセスができず、個別対応となっていた。	・実習地確保状況や厚労省への施設登録申請については、タイムスケジュールを確認し、業務にもれがないように留意し、進めていく予定である。 ・ 実習地確保については7月末までを回答期限とし、その後、未回答施設への連絡・確保の確認を行う。不足数に対して新規施設開拓や既存施設への増枠の依頼を行い、早期に実習地確保を進める。
		・実習開始までに、厚労省への申請手続きが終了できたか。	4	新規施設登録として、理学療法学科19件、作業療法学科30件の計49件について、厚労省へ実習施設申請を行った。	・継続していく。
		・円滑な実習を実施できるような、指導者会議を企画・実施し、出席者数の増加や臨床教育の向上につながったか。	4	・2023年度4年次臨床実習指導者会議は、2023年3月10日(金)Zoomにて滞りなく実施できた。参加率は理学療法学科81.1%(106施設中86施設出席)、作業療法学科81.8%(55施設中45施設出席)であった。	・2023年度3年次臨床実習指導者会議を、2023年6月24日(土)に、2024年度4年次臨床実習指導者会議を、2024年3月8日(金)に実施予定である。今後、会議形態の検討を含め、会議に向け準備を進める。
水島	情報公開	・教育活動に関する情報公開が適切になされているか。	4	・受験希望者や保護者に、授業を公開している。 ・各種ポリシー、カリキュラム一覧表並びに授業風景、国家試験の合格率、就職率について本校HPおよびパンフレットにて公開している。 ・「教育課程編成委員会」及び「学校関係者評価委員会」の議事録をHP上に公開している。 ・岩崎学園7校共通の授業アンケートを実施し、学園内で結果を公開しているが、外部公開には至っていない。	・ 学園内で横断的な授業力強化対策の取り組みを継続する。 ・ 今年度入職教員に対して、岩崎学園7校共通の授業力・学生指導の年間プログラムが実施される予定である。 ・授業のシラバス及び出席管理はスタログを使用し、岩崎学園本部と連携して、より便宜性の良いものにしていく。

4. 教育成果

担当	評価項目	令和4年度後期評価	2022(令和4年)年度後期達成状況	2023(令和5年)年度前期に取り組むべき課題等
田中	資格	・学生全員に障がい者スポーツ指導員が認定されたか。	4 ・新4年生PT学科は、障がい者スポーツ指導員中級の認定を、OT学科は初級の認定を申請中。 ・障がい者スポーツ指導員(PT学科:中級、OT学科:初級)認定校の申請に基づきカリキュラムを進めた。 ・障がい者スポーツ大会のサポートスタッフとして3年生が参加した。	・障がい者スポーツ指導員中級の資格取得(PT学科)に向け、 地域高齢者対象の体力測定会を計画(4/22、7/8に予定) している。 ・全国障がい者スポーツ大会のサポートスタッフとして、3年生が参加予定。 ・ ワールドトライアスロン横浜大会にメディカルスタッフとして1~3年生26名が参加予定。
	卒業研究	・卒業研究発表会において、研究の成果を質の高い形で発表できたか。 ・卒業研究発表会において、円滑な会の運営ができたか。	4 ・卒業研究発表会を2022年11月11日に開催し、3年生も聴講して積極的に質疑に参加するなど、学会発表に模した形態で実施できた。	・2023年度の卒研究発表会は、2023年11月10日に予定している。 ・発表に向け、各担当教員が予演会等を実施し、指導・準備する。
須藤美	国家試験	・国家試験における問題解説および分析を行い、国家試験についての対策(学生オリエンテーション、特別講義など)を図る。	4 ・全学生に対して 個別担当による面談 を実施。進捗が思わしくない学生については学科で共有し対応を検討した。 ・ 決起集会 を実施し、傾向の説明や激励をした。 ・過去10年分の国家試験分析結果を反映させた 補講 を実施。 ・自宅での学習が捗らないと思われる学生について、 登校できるよう工夫、支援 を行った。	・国家試験の傾向を分析し、ポイントを掴んだ特別講義を実施する。 ・ 学生の様子や実力試験結果から、タイムリーに対策の見直し を行っていく。
	卒業試験	・卒業試験において、趣旨に沿った選考基準が策定できたか。卒業判定が適正かつ公正に実施できたか。	4 ・第1回卒業試験の結果から、第2回・3回・再試験の難易度調整を行った。 ・ 再試験は国家試験と類似した内容・難易度となった。	・ 卒業試験と国家試験結果の関連などから、卒業試験を振り返り、規定の見直しを行う。 ・卒業試験の作成時には、複数の教員が関わり問題の精査を行う。 ・卒業試験後に学生から問題に対する意見を収集し、問題が適切かどうか検討する。
	卒業試験・実力試験	・卒業試験・実力試験において、趣旨や時期に沿った試験問題を選考・実施できたか。学生の国家試験勉強進捗の指標になったか。	4 ・全国模試では 全国との比較・分析を行い個別指導へ反映 させた。 ・卒業試験では 当日に解答を開示し、試験の見直しを促した。 ・試験の結果から補講対象者を選出した。	・年度の前半では前年度の卒業試験を実力試験として実施。 ・試験当日に解答・正答率を提示し、見直しを促す。 ・面談時に分野別正答率などから、振り返りと対策を検討する。
中	臨床実習	・「実習の手引き」等の内容を充実させ、学生のスムーズな実習領域の実現に役立つものとなったか。	4 【理学療法学科】 ・1年次臨床実習(新カリ1W);83名、コロナの影響により29名が実習を年度末に実施したが、 全員ルーブリック0項目なしで単位修得。 ・2年次臨床実習(新カリ地域福祉分野2W);87名、コロナの影響で約半数の41名が年度末に実施。 全員ルーブリック0項目はなく単位修得。 ・3年次臨床実習(新カリ4W);78名、コロナの影響により7名が年度末に実施。 ルーブリックに0項目ついた1名は年度末に追加実習の対象となったが、最終的に78名全員単位修得。 ・4年次臨床実習(旧カリ8週間2施設);78名中7名がコロナの影響実習時期、実習施設の変更等となったが、 体調不良(メンタル)により実習を辞退した1名を除く77名が単位修得。 【作業療法学科】 ・1年次見学実習(新カリ1日×6分野);42名(留年生1名を除く)夏期の保育園・幼稚園実習は特別講義で振り替えた。 年度末に5施設にて1日見学実習を実施。 ・2年次基礎実習(新カリ介護老人保健施設1W);40名が 単位修得。 ・3年次臨床実習(新カリ);臨床実習Ⅰ・Ⅱ(3週間) 臨床実習Ⅰ;31/39実施。合格31名、未実施者8名(休学者1名、単位取得済1名、年度末移行6名)名。最終38名単位修得。 臨床実習Ⅱ;35/39実施。合格:29名、未実施者4名(休学者1名、年度末移行3名)、実習中止者:1名、D項目有:3名、未実施項目有2名。最終37名単位修得。 臨床実習Ⅲ・Ⅳ(旧カリ8週間2施設) I期(4月4日~5月28日);16/33名実施(1名1週間遅れ)全員合格。 II期(6月6日~7月30日);33/33名実施(1名1週間遅れ)32名合格、1名未達成、3週間の追加実習を実施後合格。 III期(8月8日~10月1日);17/33名実施。16名合格、1名中止、進路変更による退学。 ・4年次臨床実習(新カリ)指導者会議;3/10(金)1部セミナー(MTDLPを柔軟に活用した臨床実習)、2部指導者会議実施。55施設中45施設オンラインSVM参加。事前説明・議事録限定動画(YouTube)で配信。 ・生活行為向上マネジメント(MTDLP)推進強化校として申請した。	【理学療法学科】 ・協会作成の「臨床実習の手引 第6版」に準じて本校が作成した ルーブリック評価の一部見直し 、令和5年度の実習から適応とする。 ・3年次総合演習、セミナーにおける 実技試験を実習前OSCEとして実施する。 また4年次臨床実習後には 単位認定の一部にOSCEを加える。 実習前・後のOSCEでは、臨床の理学療法士にも協力を依頼し実施予定である。 【作業療法学科】 ・令和5年度も、COVID-19に対する感染対策を行いながら、可能な限り外部での臨床実習実施の方針である。生活行為向上マネジメント(MTDLP)推進強化校として、オンラインなどを活用して、全学生や全臨床実習施設においてMTDLPを活用、継続できるように臨床実習を組み立てる。 ・ 臨床実習におけるDX(デジタルトランスフォーメーション)化も継続して進める。

学校法人岩崎学園 横浜リハビリテーション専門学校 令和4年度自己評価表

村・水島	・臨床実習後の症例発表とグループディスカッションを通して、実習の振り返りや理学療法士・作業療法士としての今後の課題を学生自ら明確にしたか。	4	・OT学科では、 MTDLPレジュメによる症例報告会 をI期は5月30日(月)に対面で実施。II期・III期は、10月19日(水)に実施した。	・OT学科では、卒業生に來校してもらい、 MTDLPレジュメによる症例報告会及びOSCE(作業療法介入の一部実施) を各期終了後、実施予定である。
	留年・退学者防止	3	【理学療法学科】 ・1年生(25期生)の後期再試験は、平均1.1であり、 前期0.9と同様の結果であったが、昨年度(24期生)0.5に対しては倍増した。 ・2年生(24期生)の後期再試験は、平均0.5であり、 前期0.3とほぼ同様で、昨年度(23期生)1.6に比べると著減した。 ・3年生(23期生)は後期再試験は、 平均0.3であり、前期1.3よりも著減した。昨年度(22期生)0.1とほぼ同様の結果となった。 ・ 再試不合格者についても、2年生1名(前期3名)、3年生0名(前期2名)と、2,3年生は後期に減少していたが、1年生は後期6名(前期6名)とのべ総数は変わらず、この結果が数名の退学に繋がったため、本学年は今年度引き続き注意が必要である。 【作業療法学科】 ・後期強化組は 1年9名、2年6名 を対象にサポートを行った。 ・後期での総合点による偏差値比較では、1年9名平均37.2(前期平均46.5)で-9.3、2年6名平均41.0(前期平均31.3)で+9.7となり、2年次でプラスの効果があった。強化組で総合点偏差値35以下の者は、1年1名、2年1名であった。個別には、強化組対象で2年1名が退学となっているが、1年次では留年退学はなかった。	【理学療法学科】 ・学力低下者に対する強化組対策を継続する。 ・ ここ数年1年次に再評価不合格者が多いため、入学後早期に学習力の確認を行う。 また、解剖・生理学については、グループ学習会等での強化策の精度を向上させる。 ・全学年でクラス内のグループによる学習会活動の円滑な実施、内容の充実を目指す。 【作業療法学科】 ・今年度も強化組対策を継続する。対面またはオンラインでの対応も踏まえ、学生間での主体的な学びを促進するため、 内部特待生やRリーグと連携 しながらハイブリッドな対応も継続して実施していく。
	卒業生	4	・各関連学会、学会誌等で卒業生の動向を把握し、学校HP/パンフやツイッター、学校説明会等広報において紹介した。 ・ 学内の各授業では、様々な領域で活躍している卒業生(障がい者スポーツ、司法精神科領域等)に講演を依頼している。 ・卒業生参加の授業に関して、今年度は感染対策を徹底しながら行っている。 ・オンラインのメリットを生かし、卒業生に各種講演やアドバイザー、学内実習などのOSCE場面で模擬患者役や評価者役を依頼している。	・継続

5. 学生支援

担当	評価項目	令和4年度後期評価	2022(令和4年)年度後期達成状況	2023(令和5年)年度前期に取り組むべき課題等
田中	・挨拶や服装、遅刻など基本的な生活習慣の確立、社会性・公共性を育む指導・支援ができたか。 ・様々な教育活動において、社会人・医療人としての精神の育成に向けた支援ができたか。 ・学習状況実態調査で学生全体の生活習慣や学習環境を把握できたか。 ・実習で指摘された社会性(情意面)についてまとめ、その結果を支援に生かすことができたか。	4	・対面での担任面談や対面授業等で教科担当から指導を行った。 ・夏期に病院・地域での実習が、キャンセルにて実施できなかった学生は年度末に実施した。 ・1・2年生については、基礎カリサチ2回目内のアンケートにて、学生の心理状況、専門職就業に向けたモチベーション、学習習慣等の把握を行った。	・新入生は入学時オリエンテーションや 初年次教育 にて社会人・医療人としての資質の形成を支援する。 ・対面での担任面談や対面授業等で教科担当からの指導を行う。 ・PT学科1~3年生、OT学科2・3年生は夏期に病院・地域での実習を行い、社会性を含めた情意面について、課題を明確化する。 ・ 1・2年生については、4月に実施する基礎カリサチ内のアンケートにて、学生の心理状況、専門職就業に向けたモチベーション、学習習慣等の把握を行う。
	・学園祭などの活動において学生が主体的に活動し、リーダーシップやコミュニケーション能力などの育成に向けた支援ができたか。 ・学校行事の充実に向けた支援ができたか。また、参加率が90%以上に到達したか。	4	・2022年10月29日(土)、30日(日)に行われる学園祭は昨年度と同様にハイブリット形式で実施となった。感染予防のため食事は実施せず、各クラス展示・学園祭実行委員を中心としたイベントを実施した。 ・クラスで積極的に取り組む様子も伺え、クラスで一体となり展示・企画が実施できた。7校合同での横断イベント(お笑い)や隣接の保育校との合同イベントも実施され、学生全体が楽しめた様子であった。 ・2023年3月16日(木)に岩崎学園合同卒業式・謝恩会を終え、無事に全97名の卒業生を送り出すことが出来た。	・2023年4月6日(木)に岩崎学園合同入学式が執り行われ、125名の新入生を迎えた。 ・ 2023年10月28日(土)・29日(日)に学園祭 が行われる予定である。COVID-19の感染状況に応じた開催形式が検討されている。前年度同様、学生が主体的に楽しめるよう支援していきたい。
水島	・効率的に行事が運営できるよう、全体の年間予定表・各行事のマニュアルの再調整を行い、業務の連携及び効率化を図れたか。	4	・年度後期にイベントが集中することもあり、業務分担をはかり行事の運営にあたった。十分な引継ぎが行えるよう振り返りを行い、次年度の運営に反映していく。 ・感染状況に応じた体育館使用のルールを設け、サークルの活動を再開・継続できている。ルールに準じて継続した活動が行えるよう、顧問との連携を取っている。	・感染状況も変化中、各行事での新企画など、情報を収集し、効率よく準備する。 ・岩崎学園全体でのイベントについては、学内担当者が本部の流れや意向を把握し、学生全体が楽しめるようなイベント運営に努める。 ・各担当が業務内容を把握し、引継ぎが円滑に行えるよう随時進めていく。
	・学生の情報交換を定期的に行い、心身の健康問題への適切な対応ができたか。	4	・定期的な面談をオンラインも併用しながら実施している。各学科会議でも情報を共有し対応策を検討する中で、必要に応じて スクールカウンセラーの利用を促す など心身の健康問題等への適切な対応を行った。 ・週1回学科会議および問題発生時適宜学生に関する情報交換を行っている。	・従来のものを継続しながら、岩崎学園からマインドフルネスが展開されれば、学生への展開を含めて参加予定。
	・学生の面接・面談の記録があるか。	4	・学生カルテを作成し、学生のプロフィール・緊急連絡先及び面接の記録、臨床実習の記録を保管している。オンラインでも対応可能なように、セキュリティー対策をして教員間で情報を共有している。	・継続
瀬古	・就職・進路について相談できる担当者があるか。	4	・担任、国試担当教員、就職指導職員が対応にあたった。	・継続
	・学生の健康診断を定期的に行っているか。	4	・年1回実施(2022年度は3月31日に実施)	・年1回実施(2023年度は4月3日に実施済)
	・犯罪・薬物・消費トラブル等の指導を行っているか。	4	・12月に1~3年生へ資料を配布し、詐欺・犯罪への注意喚起を実施した。	・4/13新入生対象に薬物乱用防止教室を実施。 ・随時、詐欺・犯罪・消費者トラブル等への注意喚起を実施する。
	就職支援	3	・年内内定率 ():2021年度内定率 PT:69.0% OT:68.0% 全体:69.0%(PT:61.4% OT:59.4% 全体:60.8%) ・ 年度内内定率(2023/3/31付) ():2021年度内定率 PT:98.5% OT:100% 全体:98.9%(PT:100% OT:100% 全体100%) ・新型コロナウイルスの影響を受けつつも、通常通り臨床実習を実施できたこともあり、就職活動がスムーズに進んだ。 ・一方、就職活動に苦戦する学生もおり、学生の特性を把握し、きめ細やかな就職支援をする必要がある。 ・就職活動状況支援システムの整備が完了したが、学生の入力感が徹底されていなかった。	・学生個人の国家試験対策状況を鑑みながら内定率年内60%、年度内100%を目指す。 ・就職ガイダンス2回終了。8月に就職ガイダンスと合同就職説明会(web)を実施予定。 ・ 岩崎学園キャリア開発部による面接支援システムとAIによる履歴書添削システムが利用できるようになるため、上手に利用しながら面接や履歴書の指導を教員主導で行っていく。 ・就職活動状況を教職員が確認できるシステムに学生が確実に登録するように促していく。
災害対策	4	・2023年3月3日戸塚消防署の協力にて避難訓練ならびに教職員に対する通報訓練実施。 ・学生に対しては地域避難所までの避難経路を実際に移動する避難訓練を実施。 ・災害時用食料、防寒具を備蓄・更新。 ・学生、教職員とも災害時の連絡手段、安否確認フォームを整備し、学生生活の手引きに掲載。また、学生、教職員に年に1~2回練習として入力の機会を設けた。 ・ 本校の災害時対応マニュアルを整備した。 ・通学時・学内外の実習における賠償責任保険に加入している。	・訓練等継続・災害時対応マニュアル更新	
経済援助	・奨学金等の経済的支援があるか。 ・学費減免、学費分納制度があるか。	4	・日本学生支援機構奨学金に対応、岩崎学園奨学金を整備。 ・岩崎ともみ奨学財団指定校(給付型奨学金) ・入学時および定期試験にて特待生選抜を行い、学費等の減免を行っている。 ・学費分割納入を制度として実施。 ・高等教育修学支援新制度(2020年~)対象機関として認定 ・新型コロナウイルス感染症対策による経済的支援情報を随時提供。	・継続
	・保護者への情報提供は行われているか。	4	・保護者への便り(成績、出欠状況等)を前期・後期期末時に送付。 ・保護者向け情報公開ページをHP内に設置。 ・新型コロナウイルス感染状況に応じた保護者への案内を配信した。	・継続
	・同窓会はあるか。 ・卒業生へ学校情報を提供しているか。	4	・2023年3月26日にオンラインで同窓会主催の勉強会を開催。本校を定年退職する教員を講師とし、卒業生48名が参加した。	・2024年3月末に同窓会主催の勉強会を開催予定。

学校法人岩崎学園 横浜リハビリテーション専門学校 令和4年度自己評価表

担当	評価項目	令和4年度後期評価	2022(令和4年)年度後期達成状況	2023(令和5年)年度前期に取り組むべき課題等
			2022(令和4年)年度後期達成状況	2023(令和5年)年度前期に取り組むべき課題等
活動援助	・学生が意欲をもてる学校生活を提供しているか。	3	・「G-Leader制度を利用した海外研修」、「学校生活まるごとポイント制度」を2023年度より学生に展開するための準備を行った。	・G-Leader制度を利用した海外研修:2年生から3名選考。セブ島での1週間(2024年2月頃予定)の研修(介護施設等の見学、利用者との交流、医療系大学生との交流、ゴミ問題見学)を計画。選考された学生は事前学習や英語レッスン、報告会、エンジェリスト活動(学内外)を行う。 ・学校生活まるごとポイント制度:学校生活をまるごとポイント化し、グループで競うことで、学校生活に活気をもたらし、学習意欲を向上させる。1~3年生を38グループに分け、グループの結束力を高めるための交流会を2023年4月7日に実施した。今後、ポイント制度が定着していくように学生に働きかける。
	・クラブ活動を支援しているか。	4	・フットサル・ボランティア・バスケットボール・野球・陶芸・バレーボール・バドミントン・テニス・チアリーディング等の活動に顧問をあて、補助金で支援している。 ・サークルで活用するロッカーも必要に応じて割り当てて使用できるようにしている。 ・2022年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、体育大会は中止となったが、各サークルの活動は全面的に再開となっている。 ・男女バスケットボールチームは全国大会に出場した。	・継続

6. 教育環境

担当	評価項目	令和4年度後期評価	2022(令和4年)年度後期達成状況	2023(令和5年)年度前期に取り組むべき課題等
武田	・教室の数・広さ、実習室の数・広さは教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	4	・実習室の数、広さについては養成校設置基準に準拠している	・継続
	・教室以外に休憩スペースが適切に置かれているか。 ・食堂や運動施設など教育環境を補完する施設が整備されているか。	4	・地下一階に学生ホール完備。各フロアに休憩スペース完備。 ・体育館、箱根研修所、岩崎ミュージアム(コンサートホール)所有。	・各ホームルーム教室があるフロアならびに6階のエレベータホールのスペースで学習がしやすいように机や椅子、パーテーション、ホワイトボードなどを整備する。(備品納品待ち)
	・校舎全体およびAV機器等の経年劣化に随時対応する。	4	・校舎、設備は定期点検し、必要に応じて修理・刷新を実施。	・継続
	・自宅学習を奨励するための設備を提供しているか。	4	・全学生にノートPC(ソフト)貸与し、導入時に最新の環境を提供している。 ・スマートフォンなどを利用した国家試験対策教材スマコク(国家試験対策eラーニング)を使用 ・解剖生理学デジタル教材としてVisible Body(3D人体解剖学習リソース)を使用 ・スタログ(学習支援システム)及びメディカルオンライン(医学文献の検索・閲覧)を導入し、オンライン学習の円滑な実施環境を整えている。	・継続
武田	・図書室利用者数の増加ができたか。 ・蔵書を増加したか。 ・図書室を整理し使用しやすい環境設定ができたか。	4	・図書室活用を図るために、新規蔵書について周知を行い、図書室活用を促した。 ・図書室保管蔵書の整理、在庫確認を実施した。 ・Webサイトから学生が閲覧可能な状態とした。	・図書活用を推進するために、新規購入蔵書について周知を行う。 ・引き続き図書室保管蔵書の整理、在庫確認を実施する。 ・年度末には新規蔵書について教員・学生から希望をとる。
	・WEB利用者数は増加したか。 ・メディカルオンラインの利用者数は増加したか。また、適正に利用できたか。	4	・メディカルオンラインの利用については、概ね、適正に利用された。ダウンロードに関する注意喚起を継続した。 ・メディカルオンラインのパスワードは半期ごとに更新し、学生に周知した。	・メディカルオンラインの利用については、引き続き適正利用と利用者増加を促す。 ・他の論文検索システムを検討を継続する。
	・指定規則に従う機材、実習室などは整備されているか。	4	・「養成校備品・設備施設基準」に基づいて保有点検をした。各実習室の機器、備品の整備を実施した。 ・経年劣化した物理療法・牽引装置を新しいの機器に交換した。	・学生教育に必要な教材を継続して購入していく。 ・経年劣化した機材を更新していく。 ・3次元動作解析装置本年度購入予定。
武田	・各種マニュアル作り、破損・危険箇所への安全対策や備品の修理・新規購入が迅速に行われたか。	4	・教務室内、倉庫内を中心に物品の点検・整理を実施、不足品、欠品については、修理・補充を行った。	・備品の不足、破損に迅速に対応する。経年劣化した機材を更新していく。 ・今年度は経年劣化した心電計を新規購入する。

7. 学生募集

担当	評価項目	令和4年度後期評価	2022(令和4年)年度後期達成状況	2023(令和5年)年度前期に取り組むべき課題等
瀬古	・学生募集計画があるか。また成果は十分か。	3	・2023年度生はすべての入試を終え、理学療法学科は定員を充足した。 ・ 作業療法学科では3月に追加募集をおこなったが、2名の欠員となった。	・2024年度生は年間7回の入試の実施により定員確保を目指す。
	・入学案内書には以下の内容が明示されているか。 育成人材像、目指す資格・検定試験、学費・教材費、入学者選抜方法	4	・「入学案内書」「学生募集要項」に明示。	・継続
	・入学に関する問い合わせに適切に対応できる体制ができていますか。	4	・入試事務局が対応。 フリーアクセス0800-800-4508 infoyocr@iwasaki.ac.jp ・希望に応じて個別相談実施。 ・引き続きオンラインによる個別相談を充実させた。	・継続
	・学校説明会等において入学情報を提供できているか。	4	・学校説明会を開催し、学校紹介・各学科紹介・教員紹介・職業講話・入学説明・校舎案内を実施。 ・進学説明会開催。 ・保護者向け、受験希望者向け等、状況に合わせた説明会を実施。 ・受験勉強を促すよう、模擬試験や入試面接対策講話・入試情報・分析、個別相談を実施した。 ・今年度は感染対策を徹底し、来校型説明会を積極的に開催した。	・継続 ・現在の高校生のニーズに合わせた学校説明会を実施していく。
	・体験授業等で入学後の自分をイメージできるイベントを開催しているか。	4	・体験授業を定期的開催。 ・リハビリ室見学会実施(東戸塚記念病院、牧野リハビリテーション病院、よこすか浦賀病院で受入) ・短時間で校舎見学と体験が可能なオープンキャンパスを実施 ・感染対策を徹底し、少人数での開催を実施する。	・リハビリ室見学会に新たに湘陽かしわ台病院が加わり、高校生の見学の利便性が高くなった。
	・入学辞退者の授業料返還が適切に処理されているか。	4	・手続きについては「学生募集要項」記載。 ・2023年度生の入金後の入学辞退者はいなかった。	・継続
	・入学予定者に対し学習、学生生活のためのオリエンテーションは行われているか。	4	・今年度は11月より1回、入学予定者に対しプレップゼミを対面で実施した。 ・入学予定者に本校の授業に触れてもらうことで、内容の難しさ、学習習慣の重要性を実感してもらうとともに、同じ目標を持つ仲間と出会い、モチベーションが維持できる機会となった。	・入学ガイダンス、オリエンテーションを2023年4月3日~4月7日にかけて実施した。

8. 社会貢献

担当	評価項目	令和4年度後期評価	2022(令和4年)年度後期達成状況	2023(令和5年)年度前期に取り組むべき課題等
水島	・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	4	・職能団体の技能研修会等開催のため、感染対策を徹底して開催。 ・高校等からの依頼による出張授業に参加した。	・特になし
	・学校の施設・設備を開放するなど、地域社会と連携しているか。	4	・学外者と学生との事故も想定し、安全確保を図りながら、学校休業日に教室・体育館を貸し出し予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大により未活用。 ・地域の老人クラブイベントに施設を提供している。(今年度も中止)	・学校施設の利用については、新型コロナウイルス感染状況に応じて、地域の社会資源として活用を検討する。
	・ボランティアなどの社会活動に参加しているか。	4	・スマホ教室ボランティア(原宿地域ケアプラザ)第1回;のべ12名参加。第2回;のべ7名参加済。 ・岩崎学園主催アイデアソン;第1回(9/23)1OT1名、2OT2名参加。1OTセミグランプリ。第2回(10/1)1OT2名、2OT1名。3PT1名参加、1OTグランプリ。 ・「つなぐカフェ」開催。2022年度は計6回開催。学生延べ56名。地域参加者延べ50名参加。 介護デジタルハッカソン横浜2022;横浜薬科、情報校と作業療法学科3年4名、2年3名の計7名参加予定。(災害アプリ・医療動画・ヘルプ支援サービス) ・「HAMACH(ヘルプ発信・受信システム)」;横浜薬科・情報・横リハで構成。菅前内閣総理大臣へのプレゼン(2/7)、岩崎学園ICON(3/4開催) ・1OT1名が岩崎学園主催のアイデアソン(3/4)に参加、セミグランプリ。 ・体力測定会を2022年度は5回開催。学生延べ100名。地域参加者延べ58名参加。	・対面・オンライン、ハイブリット形式で、各種イベントに学生の主体性を尊重し、積極的に参加する。

学校法人岩崎学園 横浜リハビリテーション専門学校 令和4年度自己評価表

	・地域に対する公開講座などを主催しているか。	4	・地域住民対象の認知症予防を目的とした「つなぐカフェ」を9月から感染対策徹底のもと、 対面 で実施。 ・地域在住高齢者を対象とした「体力測定会」を5月に2回、6月、10月、1月に実施。	・体力測定会を4/22、7/8に開催予定。 ・つなぐカフェを毎月第4土曜日に開催予定。
--	------------------------	---	--	--

9. 法令等の遵守

担当	評価項目	令和4年 後期評価	2022(令和4年)年度後期達成状況	2023(令和5年)年度前期に取り組むべき課題等
瀬古	・法令や専修学校設置基準を遵守しているか。	3	・理学療法学科、作業療法学科のカリキュラムを一部修正した。	・新任教員2名、新任非常勤講師1名の県への登録を行っていく。
	・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	4	・個人情報保護規程を文書化、「学生募集要項」に記載している。 ・デジタルの個人資料はパスワードをかけ管理している。 ・在宅勤務に伴う情報管理を徹底している。	・継続
	・自己点検・自己評価を定期的に行い、問題点の改善につとめているか。	4	・自己評価は、学校運営の一部(授業アンケート、卒業生アンケート、教職員の自己評価等)となっている。2012年度より「専修学校における学校評価ガイドライン」に従い、本形式にて実施している。 ・授業アンケートをスタログ(LMS)上で実施、各授業の見直しを行っている。	・PDCAサイクルの徹底に努める。
	・理学療法教育施設評価(第三者評価)受審対策に向けた情報収集を行えたか。 ・世界作業療法連名(WFOT)の「作業療法士教育の最低基準」の条件に満たしており、認定校として登録させているか。	4	・リハビリテーション教育評価機構の認定ならびにWFOT評価については、次回受審が2026年である。	・ 理学療法士作業療法士養成施設指導ガイドラインの一部改正により自己点検、自己評価及びその結果の公表を毎年度行うことになっている。様式にのっとり作成し、前期中に公開する。
	・自己評価結果を公開しているか。	4	・公開中	・継続